

死生学・実践宗教学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
死生学特論Ⅰ	宗教心理学	2	高橋 原	前期 水曜日 3 講時	
死生学特論Ⅱ	スピリチュアリティと死生観	2	高橋 原	後期 水曜日 3 講時	
死生学特論Ⅲ	死とともに生きることを学ぶ	2	竹之内 裕文	前期集中 その他 連講	
実践宗教学特論Ⅰ	スピリチュアルケア	2	谷山 洋三	前期 金曜日 4 講時	
実践宗教学特論Ⅱ	宗教的ケア	2	谷山 洋三	後期 金曜日 4 講時	
実践宗教学特論Ⅲ	死生学文献講読	2	高橋 原 大村 哲夫	前期 水曜日 5 講時	
実践宗教学特論Ⅳ	実践宗教学試論～宗教者によるケア実践 (オムニパス)	2	高橋 原 大村 哲夫	後期 水曜日 5 講時	
応用死生学研究実習Ⅰ	スピリチュアルケア実習	2	高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫	前期 木曜日 1 講時	
応用死生学研究実習Ⅱ	スピリチュアルケア実習	2	高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫	後期 木曜日 1 講時	
応用死生学研究実習Ⅲ	スピリチュアルケア実習内容の指導(振り 返り)	2	高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫	前期 木曜日 2 講時	
応用死生学研究実習Ⅳ	スピリチュアルケア実習内容の指導(振り 返り)	2	高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫	後期 木曜日 2 講時	

科目名：死生学特論 I / Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM13308 科目ナンバリング：LGH-RES610J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教心理学

2. Course Title (授業題目)：Psychology of Religion

3. 授業の目的と概要：W・ジェイムズ、S・フロイト、C・G・ユング等の古典的な心理学者たちの議論を踏まえて、トランスパーソナル心理学などへの展開も視野に収める。また、キリスト教世界における回心体験やエクソシズム、吉本内観など日本の宗教的心理療法の事例をとりあげながら、宗教の持つ意味を人間心理の側面から考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will learn about the classical theories of psychologists of religion, such as, Willam James, Sigmund Freud, or Carl Gustav Jung, as well as the theory of transpersonal psychology. This will help students understand the meaning of religion in terms of human psyche. In the lecture, religious conversion, exorcism, and naikan ryoho will be referred to.

5. 学習の到達目標：心理学者たちの思想的営みと基本概念を学び、宗教が人間心理に及ぼす影響を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Student will learn the thought of psychologists and basic theory of their system, in order to understand how religion effects human psyche.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション 人間の心と宗教

第2回：回心と意識変容(1) 近代アメリカの宗教事情と初期の回心研究

第3回：初期の日本の宗教学と回心研究

第4回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1) 健全な心と病める魂

第5回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2) 潜在意識仮説とプラグマティズム

第6回：フロイトの宗教論(1) 前史：メスメリズムと催眠術

第7回：フロイトの宗教論(2) 抑圧理論と宗教論

第8回：悪魔祓と原始的な心理療法について

第9回：ユングの宗教論(1) コンプレックスと連想実験

第10回：ユングの宗教論(2) イメージとヴィジョン

第11回：ユングの宗教論(3) 神話と意識の進化

第12回：トランスパーソナル心理学と宗教(1) ライフサイクル論と宗教意識

第13回：トランスパーソナル心理学と宗教(2) 意識変容と宗教

第14回：宗教から心理療法へ 吉本内観を例に

第15回：論点振り返り 人間心理と宗教体験

以上の大筋に添って、死生学的観点から考察を加える。(1)

8. 成績評価方法：

毎回提出のミニットペーパーの内容と、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、理解を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

毎回授業内で課題を出すのでミニットペーパーで回答すること。

科目名：死生学特論Ⅱ／ Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM23307 科目ナンバリング：LGH-RES611J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアリティと死生観
2. Course Title (授業題目)：Spirituality and View of Death and Life
3. 授業の目的と概要：世界保健機関における健康定義の議論や、鈴木大拙、C・G・ユング、キューブラ＝ロスなどを参考に、医学や心理学の領域で蓄積されてきた死生観とスピリチュアリティについての多様な見解を紹介しながら考察する。具体的な事象への応用としては、お迎え現象、臨死体験、修行の心理などの他、遠藤周作やル＝グウィンなどの文学作品を取り上げて検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Views on spirituality, or death and life, will be considered, referring to WHO definition of health, writings of Daisetsu Suzuki, C. G. Jung, and E. K. Ross. Also referred to are bedside vision of the dead, near death experience, Shusaku Endo, or Ursula Kroeber Le Guin.
5. 学習の到達目標：スピリチュアリティと宗教という視点から、人間の生と死について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand death and life in terms of spirituality and religion.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 - 第1回：イントロダクション スピリチュアリティとは何か
 - 第2回：宗教とスピリチュアリティ
 - 第3回：世界保健機関の健康定義とスピリチュアリティ
 - 第4回：鈴木大拙『日本的靈性』とスピリチュアリティ
 - 第5回：C・G・ユングとスピリチュアリティ
 - 第6回：キューブラ＝ロスの臨死体験論とスピリチュアリティ
 - 第7回：チベット死者の書とスピリチュアリティ
 - 第8回：お迎え現象と日本人のスピリチュアリティ
 - 第9回：心霊現象とスピリチュアリティ
 - 第10回：修行とスピリチュアリティ
 - 第11回：近代日本の知識人とスピリチュアリティ(1)明治期
 - 第12回：近代日本の知識人とスピリチュアリティ(2)大正期
 - 第13回：文学作品に見るスピリチュアリティ(1)遠藤周作
 - 第14回：文学作品に見るスピリチュアリティ(2)ル＝グウィン
 - 第15回：論点振り返り スピリチュアリティと現代
8. 成績評価方法：
 - 毎回提出のミニットペーパーと期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
 - 窪寺敏之『スピリチュアリティ学概説』三輪書店、2008年、他、適宜授業内で指示する。
10. 授業時間外学習：テキスト、配布資料を熟読する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
 - 毎回授業内で課題を与えるのでミニットペーパーにより回答すること。

科目名：死生学特論Ⅲ／ Death & Life Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：竹之内 裕文

コード：LM98818 科目ナンバリング：LGH-RES612J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死とともに生きることを学ぶ
2. Course Title (授業題目)：Cultivating Wisdom of Mortal Human Life
3. 授業の目的と概要：なぜ死生学という学問が誕生したのかということから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course describes the origins and purposes of the discipline of thanatology and covers various problems and challenges faced by modern medicine, such as an increasing demand for terminal care and home health nursing. Today, we are asked to provide care and support in multiple and varied circumstances: as volunteers in the areas affected by the Great East Japan Earthquake, as elderly care workers, etc. Ultimately, any member of our super-aged, mass death society may find him- or herself in the position of a caregiver. This course aims to prepare students for this role and give each of them an opportunity to look for his or her personal way to address a range of issues related to human life and death.
5. 学習の到達目標：①対話スタイルで進められる授業を通して、対話的探究の楽しさと可能性を味わい、対話のスピリットと技法を習得する。
②テキストを読み、他の受講者や教員と対話することを通して、「死とともに生きる」自分なりの構えと知恵を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the key concepts of thanatology and gain a deeper insight into present-day issues concerning life and death. Students are expected to:
 - 1) discover the joys, as well as effectiveness, of dialogic inquiry through interactive, dialogic lectures; and cultivate the mentality and a set of skills necessary for constructing a productive dialogue.
 - 2) develop personal strategies for dealing with death through the dialogue with course-related texts and other learners.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。授業は、1) 所定のテキストの各章(序章～終章)をめぐる9つの対話、2) 受講者とともに問いを設定する3回の死生学カフェ、3) 重度障害者の自立生活に関する動画鑑賞により構成される。

 - ・ 1) ガイダンス：講義の目的と進め方、「対話」をめぐる試行の対話
 - ・ 2) ワールドカフェ ある死別の経験から(序章)
 - ・ 3) 映画『生かされて生きる』鑑賞

 - ・ 4) テキストをめぐる対話① 重度障害者自立ホームから(第1章)
 - ・ 5) テキストをめぐる対話② 在宅緩和ケアの現場から(第2章)
 - ・ 6) テキストをめぐる対話③ 死者と共にある農村との出会い(第3章)
 - ・ 7) 死生学カフェ①

 - ・ 8) テキストをめぐる対話④ いのちに気づかって生き、死ぬ(第4章)
 - ・ 9) テキストをめぐる対話⑤ 共に生きること、本当に生きること(第5章)
 - ・ 10) テキストをめぐる対話⑥ 森と湖の国の「福祉」(第6章)
 - ・ 11) 死生学カフェ②

 - ・ 13) テキストをめぐる対話⑦ ホスピス運動の源流を辿る(第7章)
 - ・ 14) テキストをめぐる対話⑧ 死とともに生きることを学ぶ～哲学と対話(終章)
 - ・ 15) 死生学カフェ③
8. 成績評価方法：

ポイント制とします。試験やレポートはありません。

 1. テキストをめぐるワールドカフェ/対話(全9回)の準備作業として、受講者は各回の授業冒頭にフィードバックシートを提出します。すべての設問にきちんと回答して、フィードバックシートをすべて提出すると、8点満点×9回=72点のポイントを獲得します。
 2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり3点を加算します。
9. 教科書および参考書：

講義担当者の単著『死とともに生きることを学ぶ 哲学と対話』(ポラーノ出版 2019 ISBN: 978-4908765223)をテキストとして使用します。宗教学研究室にて割引価格で購入できるように手配します。

The course is based on the instructor's book:

Takenouchi Hirobumi. Shi to Tomo ni Ikiru Koto wo Manabu: Tetsugaku to taiwa (Polano Shuppan, 2019)

The book can be purchased for a reduced price at the department of Religious Studies.

1 0. 授業時間外学習: 講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。通常の授業より、事前の準備課題が多いように感じられるかもしれません。しかしその分、事後のレポートや試験はありません。対話=本番という考え方を共有してください。

Students are required to read the assigned texts in advance and fill in all feedback sheets (eight in total).

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他: なし

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェと対話については次の URL を参照ください。 <https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>
<http://hdl.handle.net/10297/00027723>

科目名：実践宗教学特論 I / Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：谷山 洋三

コード：LM15408 科目ナンバリング：LGH-RES613J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア
2. Course Title (授業題目)：Spiritual Care
3. 授業の目的と概要：国内のスピリチュアルケアの議論に触れつつ、その多様性と課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Discussing the debates on spiritual care in Japan and confirming its diversity and challenges; such as the background of the birth of Rinsho-shukyo-shi, or interfaith chaplain, the difference between spiritual care and religious care, and the utilization of religious resources as the commonality of both cares, The students will explore the specifics of care practice and deepen their understanding through a workshop.
5. 学習の到達目標：公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法を理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand spiritual care provided in public spaces and its philosophy and methods.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
オンライン授業の場合は、ライブ配信で実施する。詳細は、Google Classroom に提示する。
第1回：オリエンテーション
第2回：チャプレンとビハーラ僧
第3回：「臨床宗教師」の誕生
第4回：生活の中にある心のケア
第5回：スピリチュアルペイン
第6回：スピリチュアルな探求
第7回：「支える」「気づいてもらう」スピリチュアルケア
第8回：「新しい枠組みを作る」「無力による」スピリチュアルケア
第9回：宗教的資源の活用
第10回：宗教的ケア
第11回：臨床宗教師の可能性
第12回：臨床宗教師の資質
第13回：ワークショップ「死の体験」
第14回：ワークショップ振り返り
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：
授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]
9. 教科書および参考書：
教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
参考書：鎌田東二編『講座スピリチュアル学第1巻』ビイグ・ネット・プレス、2014年
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：実践宗教学特論Ⅱ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：谷山 洋三

コード：LM25407 科目ナンバリング：LGH-RES614J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：宗教的ケア

2. Course Title (授業題目)：Religious Care

3. 授業の目的と概要：「祈り」をテーマに、様々な宗教者、臨床宗教師、スピリチュアルケア師、医療従事者などの臨床の在り方について議論する。スピリチュアルケアや宗教的ケアの視点から、主として公共空間における「祈り」のケアとしての意義や、効果についても検討したい。毎回テーマに関する雑誌論文等を指定し、演習形式で授業を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will discuss the clinical practice of various religious leaders, chaplains, spiritual care providers, and medical professionals on the theme of "prayer." From the perspective of spiritual and religious care, we will also examine the significance and effectiveness of prayer as a form of care, mainly in public spaces. The class will be conducted in a seminar format, with journal articles and other materials related to the theme assigned each time.

5. 学習の到達目標：「祈り」について、その宗教的意義と、ケアとしての意義の両方の側面から検討し、理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：We will examine and deepen our understanding of "prayer," both from the perspective of its religious significance and its significance as a form of care.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

オンライン授業の場合は、ライブ配信で実施する。詳細は、Google Classroom に提示する。

第1回：オリエンテーション

第2回：玉井仁「祈りが人に与える効果についての研究」

第3回：高橋原「ケアの場に求められる宗教性とは何か？」

第4回：打本弘祐「医療における宗教的ケアとニーズをめぐって」

第5回：大柴譲治『『パストラルケア』と『スピリチュアルケア』』

第6回：小括（ケアと祈り）

第7回：永見純子「看護の中の祈りについての文献検討」

第8回：宮川裕美子ら「日本バプテスト連盟医療団におけるホスピスのチャプレン介入の実態調査」

第9回：山本佳世子「宗教者による非信者への宗教的ケアについて」

第10回：西岡秀爾「スピリチュアルケアにおける祈りの諸相」

第11回：小括（諸宗教と祈り）

第12回：橋口玲子「日本におけるスピリチュアルケア体制へ向けた医療政策について」

第13回：丸山空大「うたと祈り」

第14回：棚次正和「言葉の祈りと行為の祈り」

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書店、2008年

谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年

葛西健太ほか編『ケアとしての宗教』明石書店、2013年

10. 授業時間外学習：毎回担当を決めて要約、レジュメ作成し、発表する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

実践宗教学特論Ⅰを履修済みであることが望ましい。

科目名：実践宗教学特論Ⅲ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

大村 哲夫

コード：LM13508 科目ナンバリング：LGH-RES615J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：死生学文献講読
2. Course Title (授業題目)：Readings: Death and Life Studies
3. 授業の目的と概要：グリーフケアに関する文献を読み、現代人の生活の諸局面に現われる悲嘆とそのケアの方法と問題点について基礎的な知識を得る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read literature on the history and culture related to grief care.
5. 学習の到達目標：悲嘆を抱える人々に対してどのような方法で接することがケアという観点から有効であるのか、事例を踏まえて理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the history and culture related to grief care, in order to understand effective method of care for the bereaved. .
7. 授業の内容・方法と進度予定：
昨年は島菌進『ともに悲嘆を生きる グリーフケアの歴史と文化』（朝日新聞出版 2019）を読み進めた。
今年度は受講者との相談により、テキストをあらたてて選定し、講読を行なう。

学生は担当箇所についての要約発表を行い、授業内でディスカッションを行なう。

(1)イントロダクション
(2)【第1章】悲嘆が身近になる時代
(3)【第2章】グリーフケアと宗教の役割
(4)【第3章】グリーフケアが知られるようになるまで
(5)【第4章】グリーフケアが身近に感じられるわけ
(6)ディスカッション(1)
(7)【第6章】悲しみを分かち合う「うた」
(8)【第5章】悲嘆を物語る文学
(9)【第7章】戦争による悲嘆を分かち合う困難
(10)【第8章】悲嘆を分かち合う形の変容
(11)ディスカッション(2)
(12)カウンセリングと宗教論文(1)
(13)カウンセリングと宗教論文(2)
(14)カウンセリングと宗教論文(3)
(15)ディスカッション(3)
8. 成績評価方法：
出席回数と発表内容により総合に評価する。
9. 教科書および参考書：
島菌進『ともに悲嘆を生きる グリーフケアの歴史と文化』（朝日新聞出版 2019）
サブテキスト 高木慶子編『グリーフケア入門』勁草書房 2012
10. 授業時間外学習：指定テキストを熟読すること。発表担当者はレジュメを用意すること。詳細は初回に指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：実践宗教学特論Ⅳ／ Practical Religious Studies (Advanced Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原

大村 哲夫

コード：LM23509 科目ナンバリング：LGH-RES616J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：実践宗教学試論～宗教者によるケア実践（オムニバス）
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Practical Religious Studies
3. 授業の目的と概要：宗教者が公共空間でケア従事者の役割を果たすために何が必要なのか。生老病死をめぐる現代日本社会の諸状況を踏まえて課題と可能性を学ぶ。宗教者を含む実務者をゲスト講師に招き、オムニバス形式で行なう。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This class is an omnibus lecture series. Students will learn about how various professionals, including religious professionals, are tackling with the problems that contemporary society is facing.
5. 学習の到達目標：さまざまな実践例から、ケアの諸相を理解し、現代日本社会が直面している問題について理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn how religious professionals cooperate with other professionals in dealing with various problems in terms of care.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - (1) 臨床宗教師の理念
 - (2) グリーフケアと宗教
 - (3) カフェ・デ・モンク（宗教者による被災地支援の実情）
 - (4) スピリチュアルケアと宗教的ケア
 - (5) 終末期医療と宗教者
 - (6) 臨床心理学と宗教
 - (7) 民間信仰論
 - (8) 宗教間対話
 - (9) 臨床宗教師の実践報告(1)
 - (10) 臨床宗教師の実践報告(2)
 - (11) 臨床宗教師の実践報告(3)
 - (12) 臨床宗教師の実践報告(4)
 - (13) 臨床宗教師の実践報告(5)
 - (14) 臨床宗教師の実践報告(6)
 - (15) 臨床宗教師の実践報告(7) (1)Introduction; On interfaith chaplaincy
8. 成績評価方法：

出席とミニットペーパーによる。
9. 教科書および参考書：

指定しない。
10. 授業時間外学習：指示があった場合、指定文献を読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：応用死生学研究実習 I / Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫

コード：LM14101 科目ナンバリング：LGH-RES617J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習

2. Course Title (授業題目)：Field Experience of Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：死生学的課題にとりくむ現場を参与観察するとともに、スピリチュアルケア実践の実習を行い、実習先・ケアチームの状況理解、倫理的課題、ケア対象者のニーズと対応、ケア提供者の責任と実践力を身につける。実習報告会(会話記録検討会など)では、他の履修者の実習内容から、実践の多様性とフレキシビリティを学びつつ、自己課題に向き合い、ケア提供者としての自己の適性を明らかにする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students participate and observe the clinical sites that deal with life-and-death issues and spiritual care. They improve the specific understanding of care team, ethical issues, needs and responses of the clients, responsibility and practical ability of care providers. In practice report sessions (including verbatim session, etc.), each student learns about the diversity and flexibility of practice from the reports of other students, faces self-goals, and clarifies their aptitude as a care provider.

5. 学習の到達目標：スピリチュアルケアの現場に身を置くことで、死生学的課題にとりくむ実践力を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students develop practical skills in dealing with life-and-death issues by putting themselves through the clinical training of spiritual care.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：学習契約

第 2 回：実習先の決定・書類締結

第 3 回：実習訪問(1)実習先の状況理解

第 4 回：実習訪問(2)チームの状況理解

第 5 回：実習訪問(3)職掌の理解

第 6 回：実習訪問(4)倫理的課題

第 7 回：実践報告会(1)実習現場特性と実習内容の分かち合い

第 8 回：実習訪問(5)参与観察報告 1

第 9 回：実習訪問(6)ケア提供者の責任

第 10 回：実習訪問(7)ケア対象者のニーズ

第 11 回：実習訪問(8)ケア提供者の対応

第 12 回：実践報告会(2)実習現場特性と実習内容の分かち合い

第 13 回：実習訪問(9)参与観察報告 2

第 14 回：実習訪問(10)ケア提供者の倫理

第 15 回：まとめ・自己評価

8. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

9. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010 年 参考書：

谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

履修は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。併せて、応用死生学研究実習 III、死生学特論 I(高橋原)、実践宗教学 特論 I(谷山洋三)、人文社会科学研究(前期、大村哲夫)を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅱ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫

コード：LM24101 科目ナンバリング：LGH-RES618J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習

2. Course Title (授業題目)：Field Experience of Spiritual Care

3. 授業の目的と概要：スピリチュアルケアが提供される現場での実習と参与観察を行い、これに基づいてケーススタディによるレポート(会話記録 など)を作成・発表し、職掌の理解、倫理的課題の把握と分析、多職種チームアプローチの方法と意義、ケア提供者の責任と 倫理について、実践的な視点から考察する。実習報告会(会話記録検討会など)では、他の履修者の実践内容に基づいて、自 己の実践性について相互評価を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students conduct the clinical training and observe the clinical sites where spiritual care is provided. They write and present reports (such as verbatim) based on this field experience, to grasp and analyze the ethical issues, multi-disciplinary team approach, and the responsibilities of the care provider; through practical perspective. In practice report sessions (including verbatim session, etc.), students evaluate his/her performance each other through the reports.

5. 学習の到達目標：死生学的課題にとりくむ現場における自らの役割を理解し、体系的に論じる力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students develop the understanding of own role in the field of dealing with life-and-death issues, and develop the ability to discuss it systematically.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回：学習契約、実習先の決定・書類締結

第 2 回：実習訪問(1)実習先の状況理解

第 3 回：実習訪問(2)職掌の理解

第 4 回：実習訪問(3)倫理的課題

第 5 回：実践報告会(1)実習内容の分析

第 6 回：実習訪問(4)参与観察報告 1

第 7 回：実習訪問(5)チームアプローチ

第 8 回：実習訪問(6)多職種間コミュニケーション

第 9 回：実践報告会(2)実習内容の分析と批判的検討

第 10 回：実習訪問(7)参与観察報告 2

第 11 回：実習訪問(8)情報共有

第 12 回：実践報告会(3)活動の倫理と責任についての分析

第 13 回：実習訪問(9)ケア提供者の倫理

第 14 回：実習訪問(10)ケア提供者の責任

第 15 回：まとめ・自己評価・実習報告レポート

8. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

9. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010 年 参考書：

谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年

10. 授業時間外学習：授業内で指示する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

履修は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。応用死生学研究実習 I、応用死生学研究実習 III、死生学特論 I(高橋原)、実践宗教学特論 I(谷山洋三)、人文社会科学研究(前期、大村哲夫)を履修済みであること。併せて、応用死生学研究 実習 IV、死生学特論 II(高橋原)、実践宗教学特論 II(谷山洋三)、人文社会科学研究(後期、大村哲夫)を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅲ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫

コード：LM14211 科目ナンバリング：LGH-RES619J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習内容の指導(振り返り)
2. Course Title (授業題目)：Supervision for the Field Experience of Spiritual Care
3. 授業の目的と概要：応用死生学研究実習Ⅰの実習での経験に基づいて、グループワークを通して、傾聴の姿勢・態度、言語的・非言語的コミュニケーション能力、ケア対象者理解について自己検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、実践力を養う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Each Student reflects and evaluates his/her own listening attitudes, verbal and non-verbal communication skills, and understanding of the clients through group sessions, based on the field experience in Practical Studies on Death & Life I. They improve practical skills by continuing self-evaluation and reflection.
5. 学習の到達目標：実習での経験に基づいてスピリチュアルケア提供者としてのアイデンティティ確立を目指す。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Each student establishes his/her own identity as a spiritual care provider based on field experiences,
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：実習先オリエンテーション
 - 第2回：ケア倫理オリエンテーション
 - 第3回：学習契約
 - 第4回：傾聴の姿勢・態度
 - 第5回：感情のキャッチボール
 - 第6回：ロールプレイ(1)傾聴の姿勢・態度の確認
 - 第7回：会話記録検討(1)感情表現
 - 第8回：会話記録検討(2)言語的コミュニケーション
 - 第9回：会話記録検討(3)非言語的コミュニケーション
 - 第10回：総合ディスカッション
 - 第11回：会話記録検討(4)ケア対象者理解
 - 第12回：会話記録検討(5)ケア提供者の自己覚知
 - 第13回：会話記録検討(6)感情表現によるケア
 - 第14回：ロールプレイ(2)傾聴の姿勢・態度の変化確認
 - 第15回：まとめ・自己評価
8. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]
9. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年 参考書：
谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
 11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：なし
履修は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。併せて、応用死生学研究実習Ⅰ、死生学特論Ⅰ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅰ(谷山洋三)、人文社会科学研究(前期、大村哲夫)を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅳ／ Practical Studies on Death & Life (Advanced Field Experience

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：高橋 原、谷山 洋三、大村 哲夫

コード：LM24213 科目ナンバリング：LGH-RES620J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習内容の指導(振り返り)
2. Course Title (授業題目)：Supervision for the Field Experience of Spiritual Care
3. 授業の目的と概要：応用死生学研究実習Ⅱの実習に基づいて、感情の言語化、自分史の振り返り、自己開示・内省のワークショップを通して、自己のケア能力・姿勢・態度を検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、高度な実践力を養う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Each Student verbalizes own emotions and reflects on his/her own life history, in self-disclosure and introspection workshops. He/She reflects and evaluates his/her own care skills and listening attitudes through these group sessions, based on the field experience in Practical Studies on Death & Life II. They better improve practical skills by continuing self-evaluation and reflection.
5. 学習の到達目標：実習での経験に基づいてスピリチュアルケア専門職としての責任と倫理を高め、専門的な実践力を養う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Each student develops his/her responsibility and ethics as a spiritual care professional based on the experience of practical training, and then cultivates the professional ability.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 第1回：実習先オリエンテーション
 - 第2回：ケア倫理オリエンテーション
 - 第3回：学習契約
 - 第4回：ロールプレイ 傾聴の姿勢・態度の確認
 - 第5回：会話記録検討(1)沈黙によるケア
 - 第6回：会話記録検討(2)感情表現によるケア
 - 第7回：会話記録検討(3)感情の言語化
 - 第8回：会話記録検討(4)自己開示
 - 第9回：総合ディスカッション
 - 第10回：生育歴セミナー(1)自分史の振り返り
 - 第11回：生育歴セミナー(2)課題の自覚
 - 第12回：会話記録検討(5)自己内省
 - 第13回：会話記録検討(6)「傷ついた癒し人」
 - 第14回：会話記録検討(7)セルフケア
 - 第15回：学習成果報告
8. 成績評価方法：

レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]
9. 教科書および参考書：

教科書：窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年 参考書：
谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
10. 授業時間外学習：授業内で指示する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
履修は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。応用死生学研究実習Ⅰ、応用死生学研究実習Ⅲ、死生学特論Ⅰ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅰ(谷山洋三)、人文社会科学研究(前期、大村哲夫)を履修済みであること。併せて、応用死生学研究実習Ⅱ、死生学特論Ⅱ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅱ(谷山洋三)、人文社会科学研究(後期、大村哲夫)を履修すること。